



耳 寄 り 情 報 百 科

令和5年
3月号



中南地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室
弘前市蔵主町4 電話：0172-33-2902
FAX：0172-34-4390

黒石分室
黒石市田中 82-9 電話：0172-52-4335
FAX：0172-53-4114

HP https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ch-nosui/w_top.html



新規就農者冬期農業基礎講座を開催

管内の新規就農者等を対象として、安定した農業経営を早期に確立するための基礎知識の習得を目的に、12月～2月の期間で7講座を開催、延べ62人が参加しました。

講座は、簿記記帳、野菜・果樹の栽培、土づくりやパイプハウスの補強方法の講義のほか、新規就農の先輩であるおやまともや小山智也氏（弘前市）とたかはししん高橋信氏（平川市）との交流会も行い、就農前後の体験談や農業経営を継続する心構えなどが紹介されました。

また、くどうともゆき工藤友敬氏のりんご園（弘前市大沢）を会場に、名誉農業経営士のなりただけし成田毅氏が講師となって、若木や成木の剪定方法について実習を行いました。どの講座でも積極的に質問をしたり、研修終了後、講師に栽培に関する相談をするなど意欲的な姿が印象的でした。

担当：経営・担い手班



講座の様子



剪定実習

あおもりの食と技伝承会を開催

郷土料理の魅力や農村女性の知識・技術を、次代を担う若手農村女性に対して伝承していくため、「あおもりの食と技伝承会」を12月14日と1月25日に開催しました。

講師には、それぞれ郷土料理の伝承活動に取り組んでいるせいのおゆ清野優美子氏（青森県生活研究グループ連絡協議会長）とたまだゆみこ玉田由美子氏（黒石市ひょうたん倶楽部副会長）を迎え、津軽地方を代表する郷土料



講習会の様子



理を作りながら、調理のコツや材料の保存方法、作る時期や関係する行事等について伝えられました。参加者は熱心にメモをとっていたほか、「棒鱈の煮付けを学べて良かった」「“煮なます”は初めて食べた」「家でも作りたい」などの感想が寄せられました。

◀ 津軽の郷土料理5品を調理

担当：経営・担い手班



令和4年度も、多くの方がこれまでの功績や優れた取組により、表彰を受けられましたので、ご紹介します。

「豊かなむらづくり全国表彰」農林水産大臣賞受賞

「農事組合法人しみず」(石山容子代表、弘前市)は、人口減少や高齢化により、耕作放棄地の増加や地域行事の中止など、農村機能の維持が難しい状況になっていた弘前市清水地区において、遊休農地の再生、高齢者・障害者への雇用の場の提供、スポーツ少年団等を対象とした農作業体験会の開催、地域内外を巻き込んだ新たなイベントの開催、一人暮らしの高齢者宅等の無料除雪など、「このままでは地域が廃れてしまう」の思いを、地域の再生や暮らしを守る取組へと発展させ、地域で支え合う持続可能なむらづくり活動を行っていることが評価され、今回の農林水産大臣賞の受賞となりました。



表彰された石山代表(右)

担当：企画班

第24回「全国果樹技術・経営コンクール」最高賞受賞

長尾博人氏(平川市)は、青森県りんご協会の特別講師や青森県わい化栽培技術研究会の専門技術講師として各産地での剪定講師及び平川市密植栽培研究会の特別顧問を務めるなど、後継者育成活動に尽力しているほか、共同防除組合の組合長を長く務め、共同生産ソフトを自ら作成して、作業の効率化と経費削減を実現し、オペレーター不足の解消に貢献するなど、地域リーダーとしての活動が高く評価され、本コンクールの最高賞である農林水産大臣賞の受賞となりました。



現地調査を受けた長尾氏(左から2番目)

担当：果樹・花き班

令和4年度「青森県褒賞」受賞

青森県褒賞は広く県民の模範となる活動を行い、産業の振興等に大きく貢献した個人や団体を表彰するものです。

相馬司幸氏(弘前市)は、りんご栽培において、省力多収が図られるわい化栽培技術の普及拡大の取組を行ってきたことや、りんご新品種の開発にも尽力するなど、農業の振興発展に大きく貢献されたことが評価され、青森県褒賞の受賞となりました。

担当：果樹・花き班



三村知事から表彰を受ける相馬氏

青森県「攻めの農林水産業賞」大賞受賞

(有) サニタスガーデン (山田広治取締役、黒石市) は、積雪の多い高冷地を拠点に、地域の信頼を得て農地集積による経営規模拡大と徹底した土づくりによる野菜の高品質安定生産を実現するとともに、地域ぐるみで野菜の契約栽培に取り組むことで付加価値を生み出すなど、地域農業をけん引している点が評価されました。

当部では令和元年から4年連続の大賞受賞となりました。



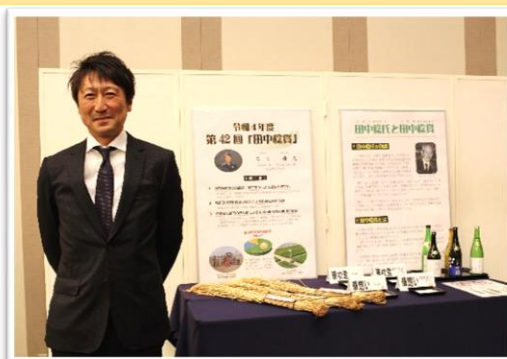
知事から祝福を受ける山田氏

担当：企画班

第42回「田中稔賞」受賞

青森県の稲作農業の振興に功績のあった個人・団体を表彰する第42回(令和4年度)「田中稔賞」に、三上優氏(弘前市)が選ばれました。三上氏は、いもち病に弱い酒米の高品質・安定生産や乾田直播栽培技術導入による規模拡大、作業受託部門を法人化し、地域の水田農業の維持に貢献している点が評価されました。弘前市からの受賞は初めてとなります。

担当：稲作・畑作・野菜班



受賞した三上氏

令和4年度「あおもりの旨い米グランプリ」受賞

青森県のおいしいお米 No.1 を決める「あおもりの旨い米グランプリ」が開催され、応募総数115点の中から、個人の部で「青天の霹靂」は葛西清美氏(黒石市)、「つがるロマン」は藤田勉氏(大鰐町)、今年度新設された団体の部で「青天の霹靂」は「稲華会」(田舎館村)がグランプリを受賞しました。

担当：稲作・畑作・野菜班



表彰式の様子

第48回「青森県花の共進会」金賞受賞

第48回青森県花の共進会において、古川次男氏(藤崎町)のアルストロメリア「ピンクラテ」と、福地秀俊氏(田舎館村)のヒマワリ「ピンセントポメロ」が金賞を受賞しました。

県内花き栽培面積のうち、アルストロメリアは藤崎町で8割、ヒマワリは田舎館村で6割が栽培されています。今後も農業普及振興室として、花きの高品質安定生産を支援していきます。

担当：果樹・花き班

▶ 受賞作品
左：アルストロメリア
右：ヒマワリ



中南型産直モデルの確立と産直間の連携強化による 地産地消の推進

管内産直施設では、出荷者の約7割が65歳以上であることから、運転が困難な人に対応した新たな集荷方法の検討が必要となっていて、また大規模産直施設の認知度は高いが、小規模産直施設の認知度は、近隣住民を除くと低い状況にあります。

このため、高冷地野菜生産者7戸から集荷し3産直施設へ配送する共同集荷モデルの実証や産直施設が連携したPR活動として、スタンプラリー、産直マップの配付、地域FM放送による産直レポート等を実施しました。

共同集荷では、午後の品薄時に陳列できたことや高原野菜がなかった産直では、陳列の幅が広がり、来店客に喜ばれました。

スタンプラリーは、景品であるこぎん柄の保冷バッグが、期間終了を待たずになくなるほどの評判となり、期間中の売上げが前年を上回り、産直施設の認知度の向上が図られました。

毎週金曜日のコミュニティーFMによる産直レポートは、消費者から好評でした。

担当：企画班



産直に並ぶ高冷地野菜



こぎん柄の保冷バッグ

シャインマスカット・もも生産販売情報連絡会議を開催

中南地域は日本一のりんご産地ですが、近年、経営リスクの分散を目的に特産果樹を取り入れた果樹複合経営が進んでいます。

中でも、消費者ニーズが高いぶどう「シャインマスカット」やももの栽培面積が拡大し、今後も出荷量の増加が見込まれています。

当農業普及振興室では、3月3日にシャインマスカットとももの生産・販売に係る関係機関の情報共有と品質の安定化に向けた情報連絡会議を開催しました。

会議では、引き続き関係機関・団体が一体となった協力体制のもとで生産者への支援を行い、高品質なシャインマスカット、ももの生産・販売に取り組んでいくことを申し合わせしました。

担当：果樹・花き班



もも現地講習会



シャインマスカット・もも生産販売情報連絡会議